

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	MX16	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.053	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：MX16

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

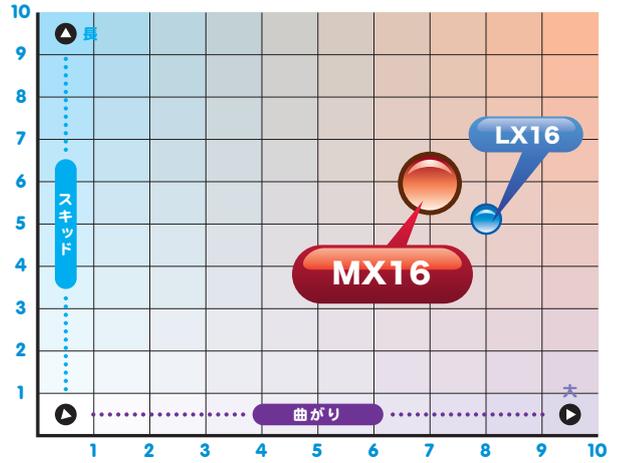
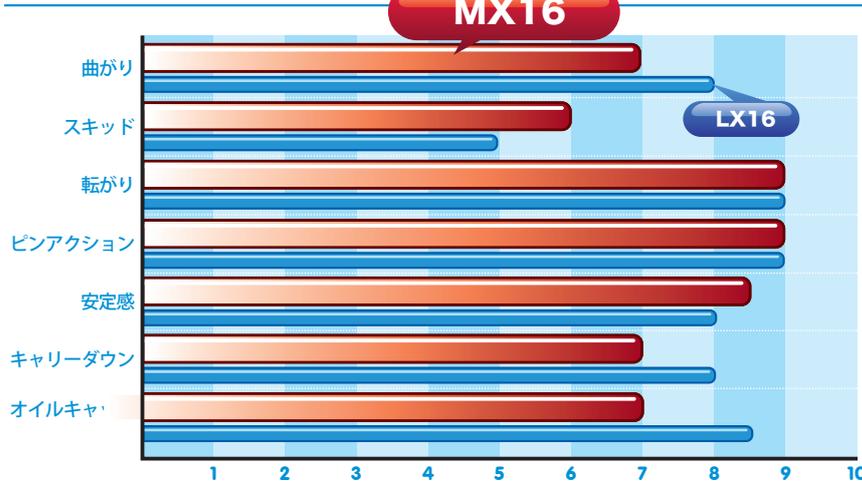
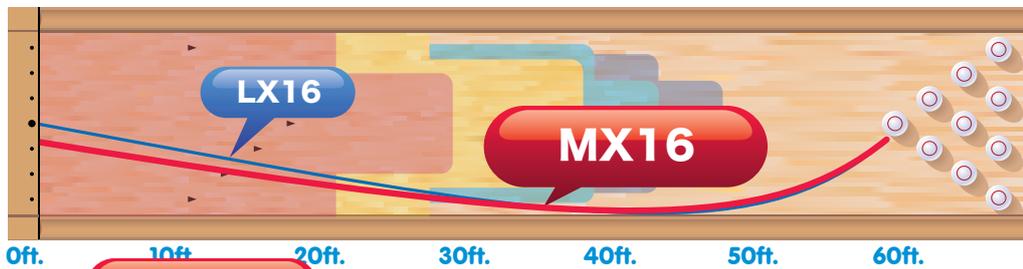
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：LX16

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

TRACK社はナンバーシステムからH(High Lev)・M(Mid Lev)・L(Low Lev)表記に移行し、簡素化することで適応コンディション、リアクション形態、パワータイプまでを分別しています。しかしH(High Lev)の性能のボールは回転数の多いパワーしか使用できないというのではなく、あくまで投球するコンディションとのマッチングであり、川添プロもLx05やLx16を気に入って使用していますし、むろんHx10もよく使用しています。必要なのはタイプに拘ることなく、使用するコンディションやレポートリーでボール選びをして頂くことだと思います。

今回のMx16はLx16のQr-8 Pearlカバーストックよりもスキッド力のあるMR-8 Hybridカバーストックを使用し、最終工程は同じ3000 Abralon仕上げになっています。QR (Quick Response)カバーストックと MR (Mid Response) カバーストックとの差は同じ表面加工で比較投球してみると、コンセプトで示されているQuick Responseという視点ではLx16は曲がり始めがやや早めに出るのですが、グイグイとピンヒットまで動き続け、奥でもう一度曲がるような反応の良さも見えるイメージがあります。一方Mid ResponseのMx16ではQRカバーよりもやや遅れて動きだし、曲がり始めから曲がり終わりまで等間隔で曲がり始めてそのままのイメージでピンヒットする感じでした。投球するコンディションでも扱い方も感じ方も違いますが、同じコンディションでラインにアプローチする場合、Lx16は手前のオイルをやや多めに使い、幅を取るライン。Mx16はしぼり気味のラインでタイトに投げるか、やや薄めの奥に合わせるライン取りでした。

TRACK社ではH・M・Lの領域で各々違ったパフォーマンスを作り上げており、Lタイプでもバックエンドの強いものもあれば緩やかに曲がるタイプもあります。そうでないと全体的に同じ領域に集まってしまう傾向があり、その部分ではTRACK社の今回のMx16は中間のキャッチと扱いやすいコントロールできる動きはコンセプトとしては他のバージョンと差別化できていると思います。

特記事項

今回のMx16はモーションポテンシャルが高いi-CoreとMR-8 Hybridカバーストック組み合わせ。ミッドエリアから緩やかにコントロールしやすいリアクションが持ち味です。